

品 目	1 アリルアルコール及びこれを含有する製剤	2 アクリル酸及びこれを含有する製剤
	アリルアルコール	アクリル酸
廃棄方法	<p>(1) 燃焼法 (ア) 木粉（おが屑）等に吸収させて焼却炉で焼却する。 (イ) 可燃性溶剤とともに焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。</p> <p>(2) 活性汚泥法 多量の水で希釈し、活性汚泥で処理する。</p>	<p>(1) 燃焼法 (ア) 木粉（おが屑）等に吸収させて焼却炉で焼却する。 (イ) 可燃性溶剤とともに焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。</p> <p>(2) 活性汚泥法 水で希釈し、アルカリ水で中和した後、活性汚泥で処理する。</p>
生成物		
検定法	ガスクロマトグラフ法	ガスクロマトグラフ法
その他		

3 エチレンオキシド及びこれを含有する製剤	4 エピクロルヒドリン及びこれを含有する製剤
エチレンオキシド	エピクロルヒドリン
<p>(1) 活性汚泥法 多量の水に少量ずつガスを吹き込み溶解し希釈した後、少量の硫酸を加えエチレングリコールに変え、アルカリ水で中和し、活性汚泥で処理する。</p> <p>〈備考〉 高濃度のエチレンオキシドは活性汚泥に悪影響があるので注意が必要である。</p>	<p>(1) 燃焼法 そのまま、又は、可燃性溶剤とともにアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉で焼却する。</p> <p>(2) 活性汚泥法 多量の水で希釈し、アルカリ水で中和した後、活性汚泥で処理する。</p> <p>〈備考〉 ア スクラバーの洗浄液には、アルカリ溶液を用いる。 イ 燃焼法の焼却炉は有機ハロゲン化合物を焼却するのに適したものとする。 ウ 燃焼温度は、1100℃以上とする。 エ 活性汚泥法は低濃度排水の処理に適する。</p>
ガスクロマトグラフ法	ガスクロマトグラフ法

5 2-クロロニトロベンゼン及びこれを含有する製剤	6 シクロヘキシルアミン及びこれを含有する製剤
2-クロロニトロベンゼン	シクロヘキシルアミン
<p>(1) 燃焼法 アフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉で少量ずつ又は可燃性溶剤とともに焼却する。</p> <p>〈備考〉 ア スクラバーの洗浄液には、アルカリ溶液を用いる。 イ 燃焼法の焼却炉は有機ハロゲン化合物を焼却するのに適したものとする。 ウ 燃焼温度は、1100℃以上とする。</p>	<p>(1) 燃焼法 スクラバーを具備した焼却炉で焼却する。</p> <p>(2) 活性汚泥法 多量の水で希釈し、希塩酸を加えて中和後、活性汚泥で処理する。</p> <p>〈備考〉 ア 希塩酸と急激に混合すると熱を発生し、混合液が飛散することがあるので注意する。 イ 焼却炉で燃焼した排ガスは洗浄装置で水洗する。 ウ スクラバーの洗浄液には、アルカリ溶液を用いる。</p>
ガスクロマトグラフ法 高速液体クロマトグラフ法	ガスクロマトグラフ法 高速液体クロマトグラフ法

7 2,4-ジニトロトルエン及びこれを含有する製剤	8 ヘキサメチレンジイソシアナート及びこれを含有する製剤
2,4-ジニトロトルエン	ヘキサメチレンジイソシアナート
<p>(1) 燃焼法 スクラバー等を具備した焼却炉で木粉（おが屑）等にまぜて少量ずつ焼却する。</p> <p>〈備考〉 一度に多量のものを処理しない。</p>	<p>(1) 燃焼法 スクラバー等を具備した焼却炉で木粉（おが屑）等にまぜて少量ずつ焼却する。</p> <p>〈備考〉 スクラバーの洗浄液には、アルカリ溶液を用いる。</p>
<p>ガスクロマトグラフ法 高速液体クロマトグラフ法</p>	<p>ガスクロマトグラフ法 高速液体クロマトグラフ法</p>
<p>加熱、摩擦、衝撃、火花等により発火又は爆発することがあるので注意する。</p>	

9 メタクリル酸及びこれを含有する製剤	
メタクリル酸	
<p>(1) 燃焼法</p> <p>(ア) 木粉（おが屑）等に吸収させて焼却炉で焼却する。</p> <p>(イ) 可燃性溶剤とともに焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。</p> <p>(2) 活性汚泥法</p> <p>水で希釈し、アルカリ水で中和した後、活性汚泥で処理する。</p>	
ガスクロマトグラフ法	